

繪首
入書

世界都路

亞弗利加洲

四

柳田文庫

文庫11

A1837

4



文庫 11
A 1837
4

古今考證

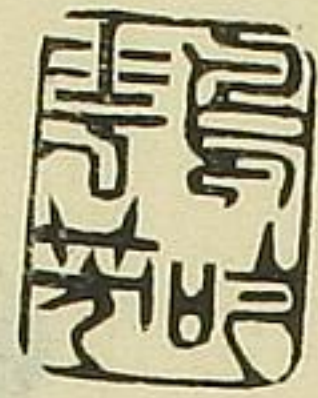


復編

李之藻



家國



世界邦各

01

48-7741

七
界
者
距
后

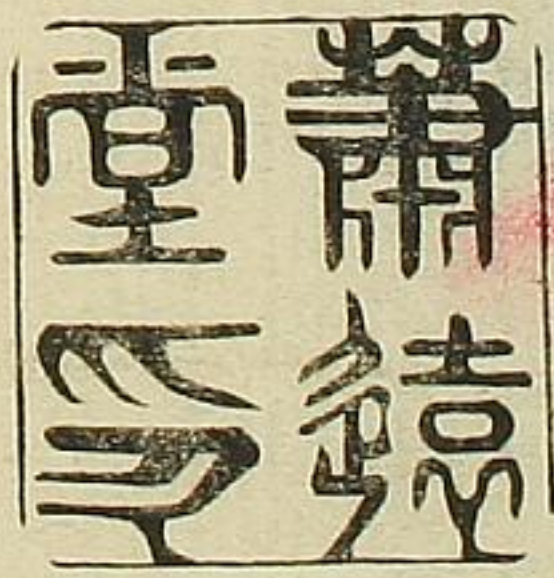
度
向
皇

風

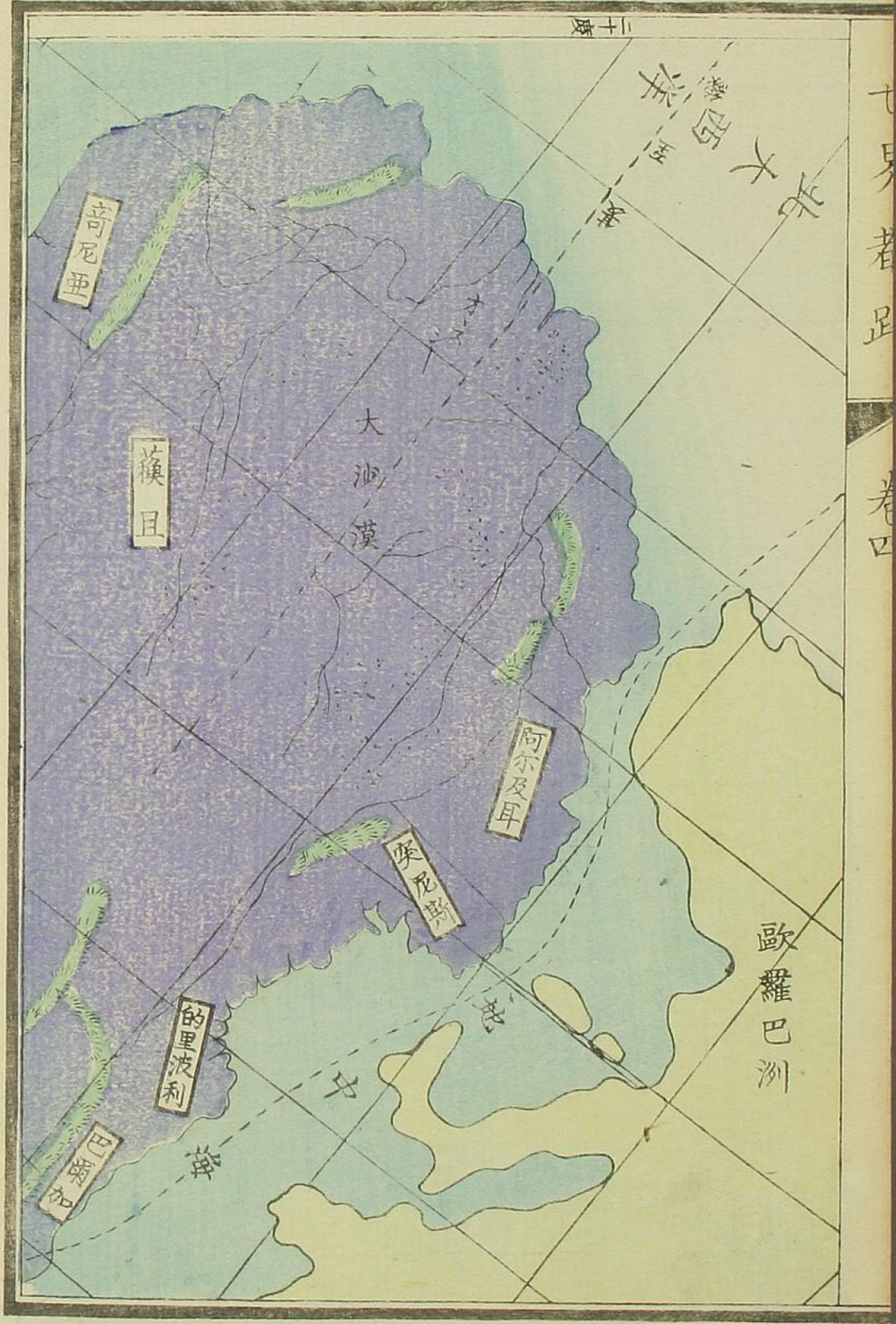
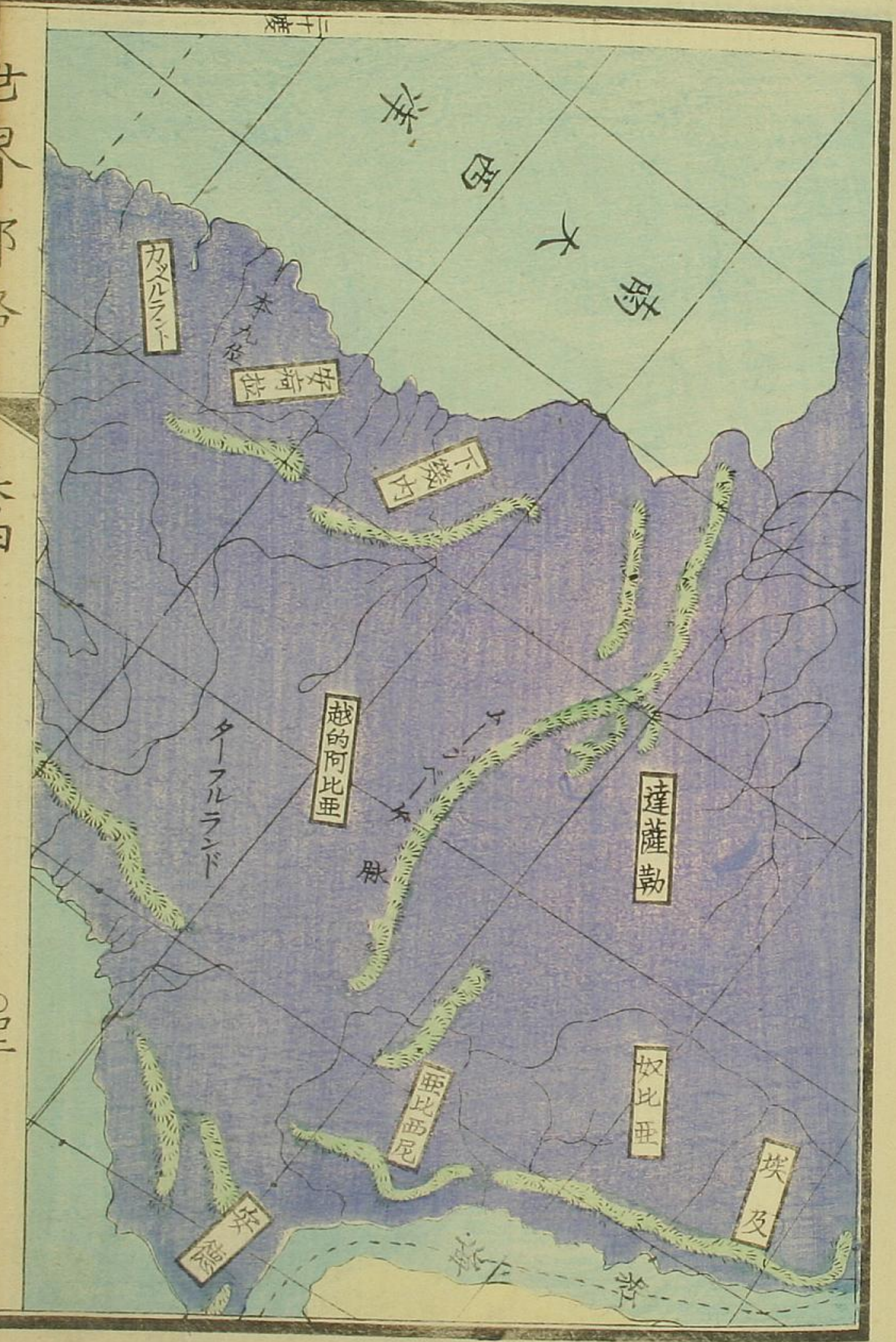
七
界
者
距
后

〇
二

麥潭寬題



亞非利加洲全圖



だく天時地氣人
 物他の大洲小方是
 り其北の方よ名あ
 る国々多し土人皆
 黒夷にして其性多
 く愚かから中
 の歐羅巴人の種と
 あり洲の極北の民
 多く亜細亞洲の中
 亞拉比亞國人の後

内地より通ふ海河の
 稀ふ少ぶ人の教皆
 炎熱不度と體之
 於此より思く性純
 多安陋た釋之



亞非利加土人

あるに因り皆回教
 と奉ト其外國人の
 崇る所日月及び更
 小怪むべき鳥獸

目元鳥羽乃其書の文
 字藝あり猿能且
 暮りし。求合活業
 の他事せんあ。初る
 何地のそれ中ふ如と

虫魚の類を崇め之を拜む者あり又南より西の方の英吉利米利堅の人西洋諸教を弘め勸る者あり洲の中間の曠野多く其北の大沙漠あり撒哈拉と名く洲の中

東に数箇國あり開化の域より徳の海に當れ是播れ進の船を紅海中海その一隅の埃及多

大河二箇あり尼里河黒河と号く又高山一帶洲中東より西小且是り月山と云ふ産毛の獸白象糊獮犀牛獅子最多其獅子能人を食ひ牛を食ふ又各種の大鳥大蛇あり○埃及多の洲の東

阿ふまう一の古ふふ李歐沙未ひあざるあふまはくも影是了知度又物氣業を隣ふうつま大空本

北に在り紅海地中海に臨み亞細亞の猶太國阿剌伯國と連り平地多く國の



世に地ひろく國博し。亦く土耳其其の管轄をとうちて回部の下にあり近江自立の國とあり其の首を

中央に大河あり尼羅と名く地と上中下三土に分ち其都二十五部とて其都府と諱祿と云ふ又地中海の濱邊に別府あり亞拉散得と名く往古希臘國の馬基頓亞勒散得王の建る所あり則ち

今ましく外に名あるは、
 威權を民に及ぶせ
 李朝府の祿の尾
 思河を其源を月

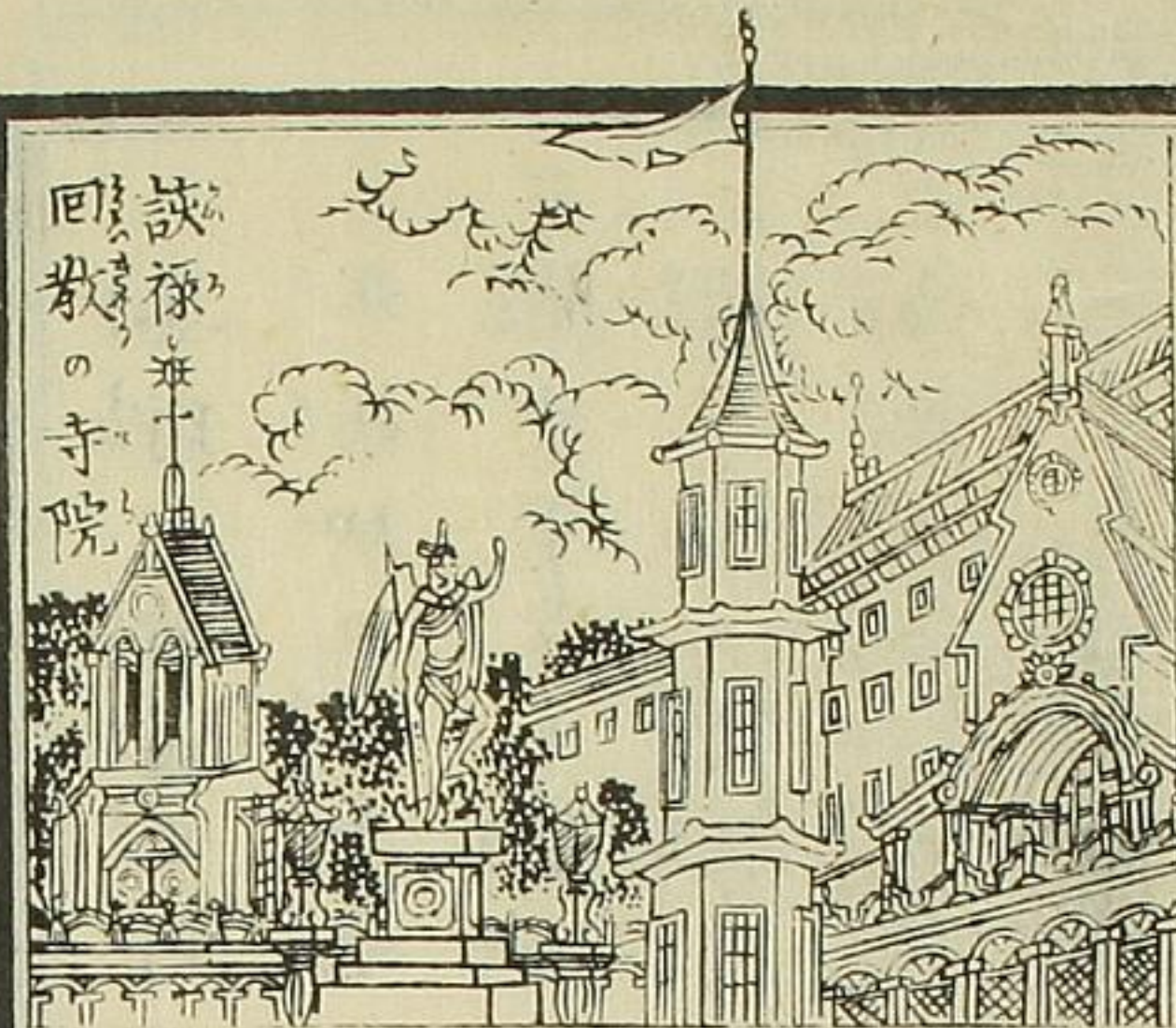
此国の舊都にして
 今に至つて著名の
 港あり其国民二百
 五十萬余都府に居
 る者三十余萬下に
 らる兵十二萬軍艦
 十二隻を収む
 麥西國を立る最
 古の漢土今云夏
 の代の初に在り

其時ハ歐羅巴阿
 非利加の西土未
 開けざるに麥西
 獨り國と建制度
 文物省其創る所
 小して西洋諸國
 悉く之に倣ひ近
 隣の諸部咸臣服
 て國王と稱を商
 の代の中葉より

山の地より多量に
 海へ入り支流を
 國內に注ぐ田畑
 耕すの便あり
 多量に産出する

沙渚少く草木水
 源絶えず南の方
 年毎ふと度死に
 出ぬありそは
 のわらわは海場所

希臘諸國興りて
麥西の諸部と分
ち取るは周のホ
波斯の爲に滅び



天地の屬目より洪
水あるは紀年
兆や民を悦べり
歴は必し末世の
らぬと死文の華

後復希臘の馬基
頓車勒散得王の
取所とあり西漢
の時意太里の羅
馬興り麥西と歸
降て屬國とを數
百年の後唐の代
の初め阿刺伯其
地と取る是は由
て回教の徒部落

しとあるは華る可を
地と都城の庫ふ
免るる七千萬の書籍
類總くはとゆき
教の是も宗徒の基

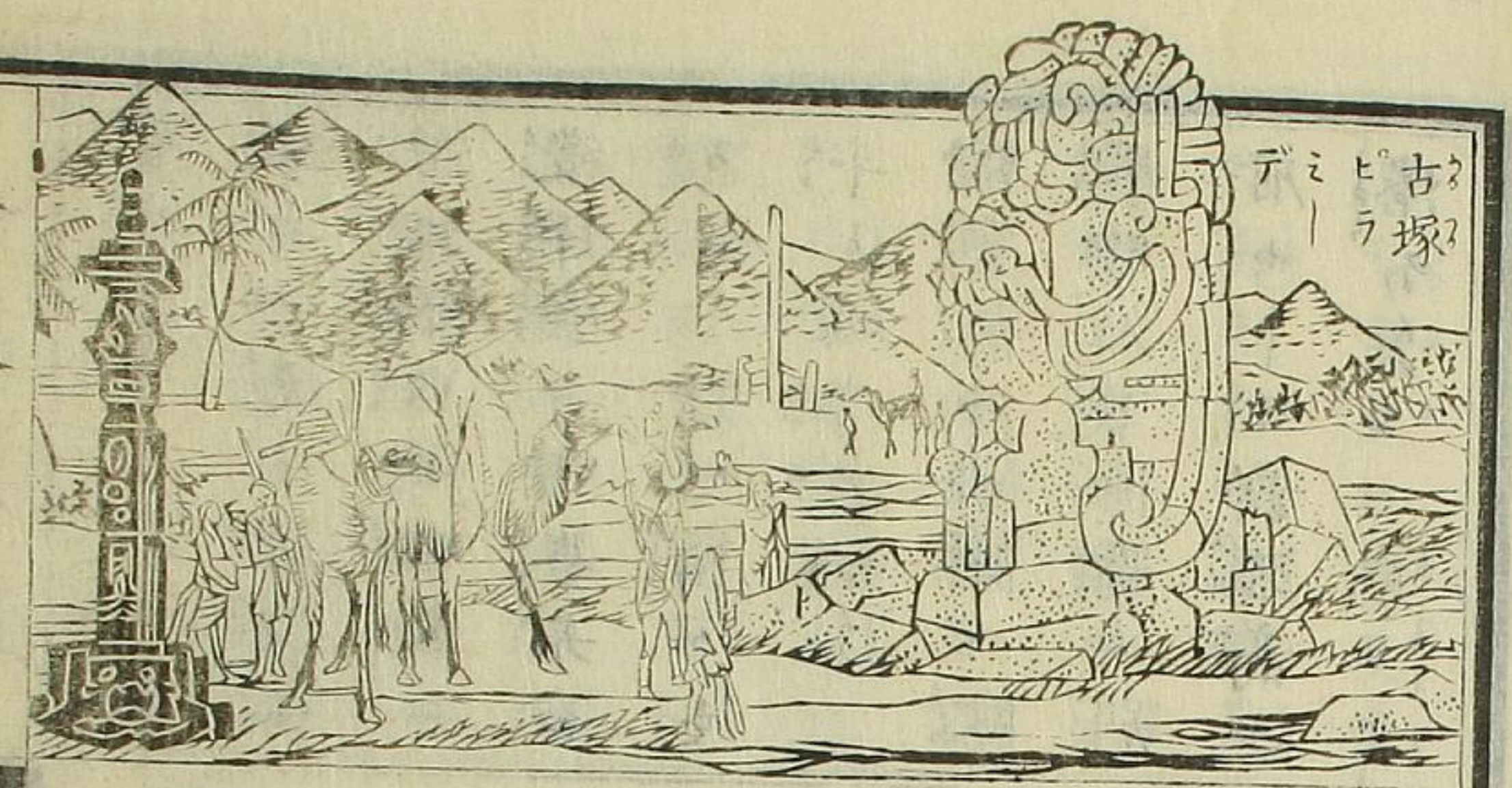
と為し明の代の
初の土耳其攻取
て別部と一是は
鎮臺と置く西洋
紀元千八百年佛
蘭西の大將拿破
倫攻て之を克三
載と越て復其地
土耳其を歸より
近年麥西の酋長

控し例をまの秦
皇が儒を宥ふせし
好ひあり株の石門
是形を刻し彫め壯
觀を外飾せしと内

土耳其を叛きて
自立の國と爲し
が英佛の和を勸
むるより復其地
土耳其を通して
外藩の國とあり
埃及多の都府談標
の城下は近き處は
最奇き古蹟の古塚

小八る街を狭くむす
るあり。茲に一寺は
大伽藍是圓教の體
拜をそと結持を
見あり。高き

あり石と以て造る
 其基闊く頂きの尖
 りて峯の如し其大
 ひある者周り六十
 丈高ヤも六十丈半
 り有り大小の塚六
 十余あり往古国王
 の墓ありと云傳ふ
 何の代に造る所と
 知らざると雖諛祿の



凡十餘丈天井黄
 金は泥を流し柱
 梁悉く鳥羽を
 の彫を子手。白燐石
 の石積は四層層あり

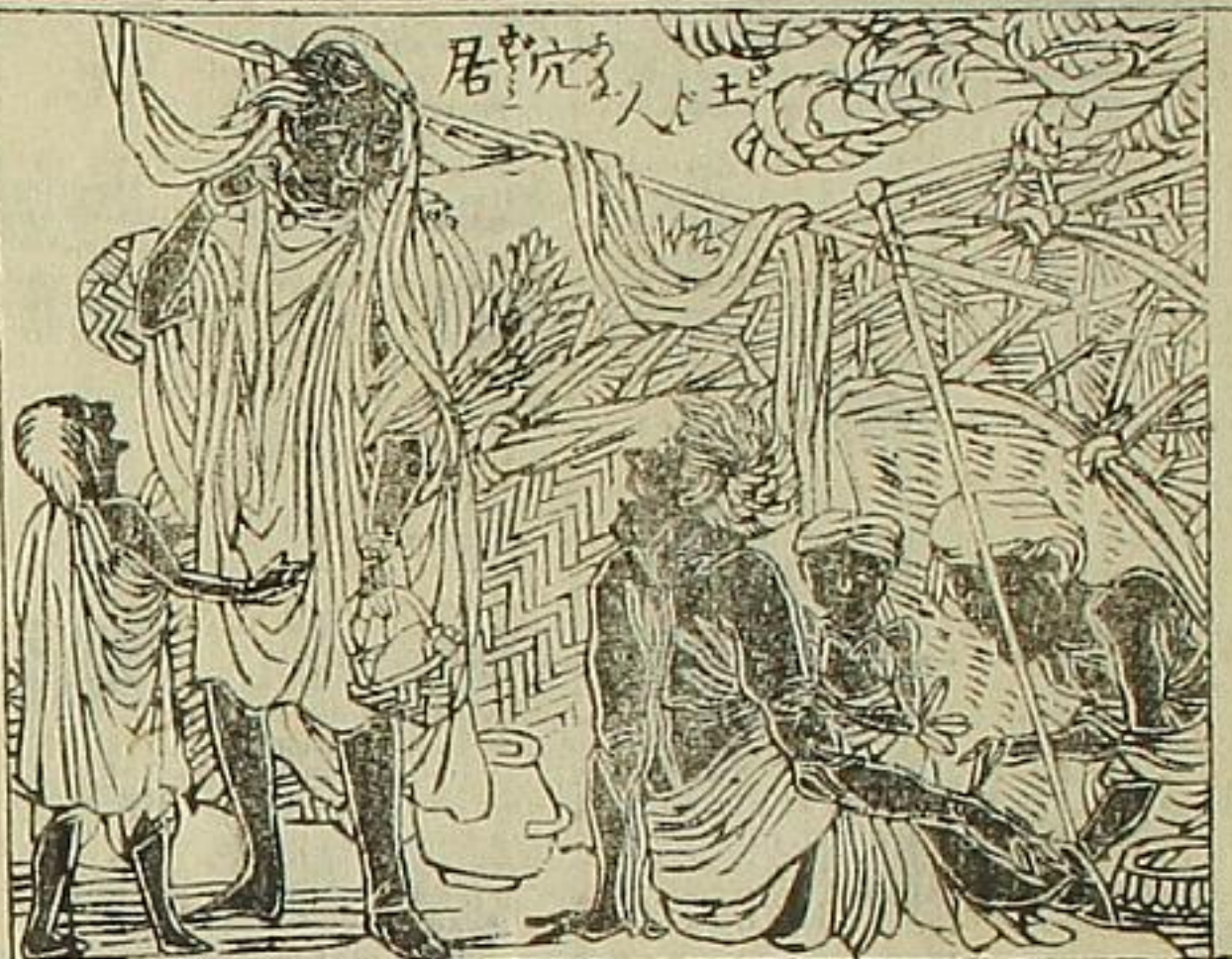
うちめぐるま登るまで
 市街を人海を六目
 瞭然実出と世か小
 井は名高き波
 古塚の元々みいせ

ピラミードとて世
 界小名高き古蹟
 り又城内小回教の
 禮拜堂あり萃券
 るる目と驚り
 斗りの奇觀あり
 亞歷散得の地の歐
 羅巴人と通商の別
 府ありて最名高き
 港あり

府下第一の奇觀を
 里亞細亞亞細亞の地味
 ありて奇觀あり
 道程の百六十里あり
 里と多くて地中海の

○努皮亜の埃及多
 の南小在り當時其
 管轄を受く国の人
 氣ありて盜賊と以
 て生業と一旅人と
 剽劫又女子を勾引
 隣國に賣渡し所
 謂賣奴の弊風あり
 地と四部分ち各
 酋長あり

大港古史を古器
 に記すに禮え
 亞歷その大古地盤
 の餘澤ありて
 揚の艦ひる西洋人



○阿比西尼亞の努
皮亞の南に在り土
人争闘殺し掠りて
好む野民の地を堀

乃日曜日有用界
よむ有用界快樂の
庭ふ通ひ路を勉
むる業は骨やまぬ
南に隣る奴皮亞を

り穴住居して常小
虫けらと捕へ食と
そ又の野獸を得て
その肉と食ひその
腸と身小纏ひ觀養
とそ國を七部に分
ちて各酋長あり
此國の土番古よ
り部落とわと者
奉むる所西教あり

人民美秀の風俗也。
中野番の八雜り賣
奴のあまき習ひあり
○酋長四方小部あり
紐唐過拉の首

らむ回教ありむ
今も至つて上国
と通せむ治革考
ふる所あり相傳
ふ其國舊くハ王
族皆高山の上ハ
聚り國人と交ら
む其逆意を防ハ
ガ爲あり位を嗣
者有ハ方り山を

府ともり。四部ハ分
ち。回教の民ハ固陋
乃。契おほく。粗食。穢
家の位。位。古。海。子
臨。去。地。極。の。漸。よ

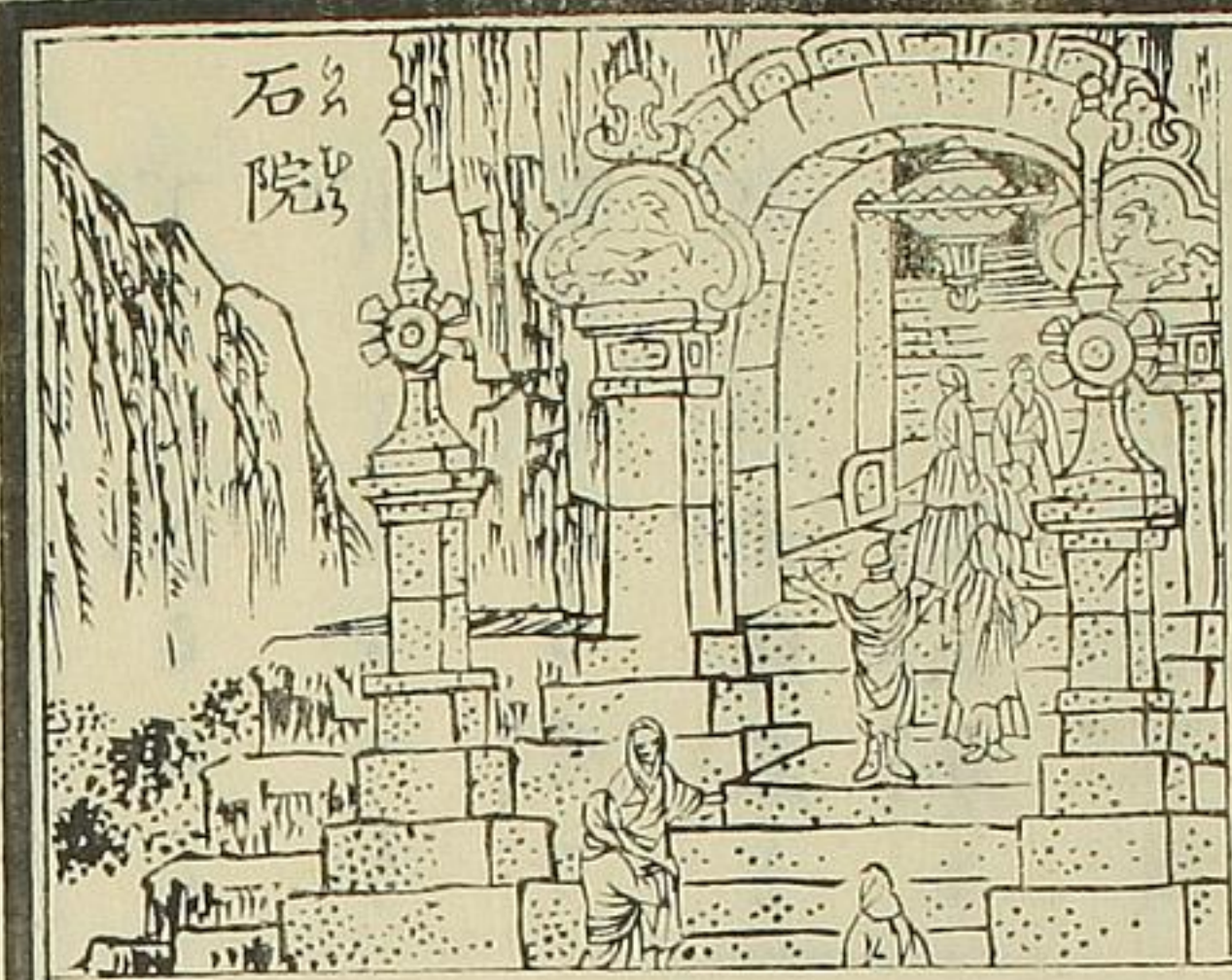
下ると許昆こと
有り。一と云へり
國民奉むる所の
教大規希臘教と
同トく猶太教ハ
相似たり。徐。繼。奮
ガ。瀛。環。志。略。亞。非
利加の部ハ波斯
圖説を引ひて火
祇教ありと云唐

混。ま。み。の。る。ま。ま。く。五
穀。豊。乏。所。あ。る。ま。ま。れ
ど。肉。地。る。沙。原。よ。あ
ま。ま。難。き。耕。法。
業。に。代。る。羊。牧。ハ。

占 東 下 各

卷 四

人大秦教と訛り
傳ふ此教ハ波斯
國々々舊く奉む
る所の者あり



草場くさくの多おほきおほなるおほら
むむ。往古むかし玉氏たまぢ高たかの山やまの
ささんん。茲けりに石壁いしへき
をを造つくららしして廟むら寺でらを
造つくりたるたるる奇きなるる工くわの

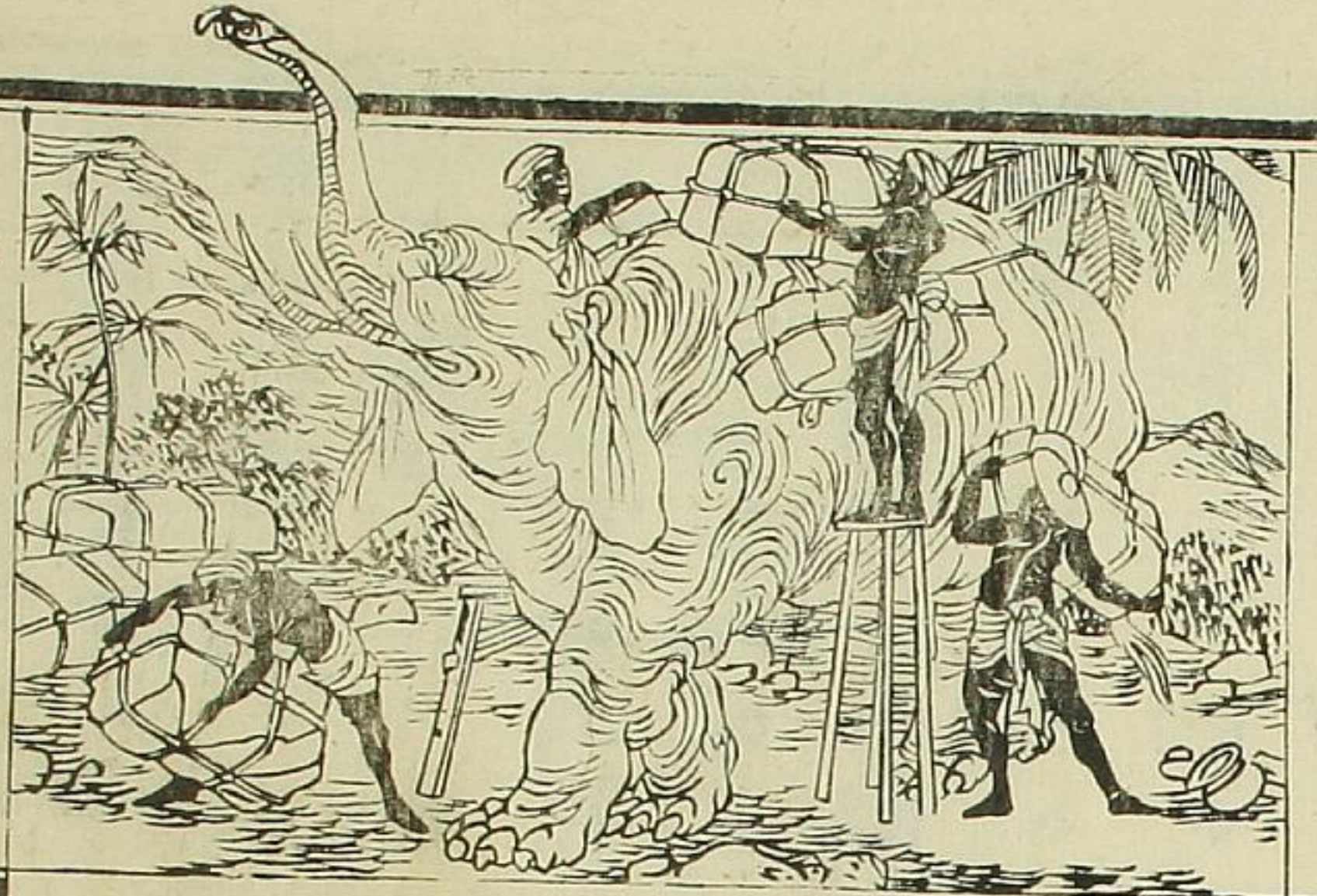
○秦給巴爾しんきつぱるの亞非
利加りかの東部とうぶに在り
其西界せいがいハ未いまだ詳しやうら
るら。居い民にん大約たいやく三
四類しよるいに分わつ其その一ひと亞
拉比亞國いらひやこくより來きる
者もの回教かいきやうを奉ほうむ其人そのにん
民半たみはんハ耕作こくさうを習ならひ
半たみはんハ盜賊たうさくと為なる故ゆゑ
争あひ殺ころし掠さらふ事こと

旧蹟きうせきなる今いまも形かたちを
止とめししる。猶なほハ南なんに
亞皮西尼亞あひしあの人員ひやくにん
をを知しららせられど。首くび有あり
公達爾こうたには恒とこに民たみを

世界都

卷四

常あり
 ○馬生別給風俗祭
 給巴爾と同一葡萄
 牙の管轄あり近年
 葡国の勢ひ衰へ買
 易盛んあらむ惟此
 国の黒坊と賣りと
 利を得らると東洋
 各國の商館あり用
 申す所の黒奴の皆



此地より販ひ来る
 殊小多しと云へり

僅五葉あしむすまじきと
 ぞ。國ををへる希
 獵教人の心をも悪く
 争ひ殺し掠るは
 惡きを好む身の業

吾ら我らうそをたぬ
 くら蛇山の獵夫の危
 住居獅子白糸と徳
 昔小舟つえ河まきど
 海近く漁て海馬鱈

○馬特加斯格の亜
 非利加海島数所の
 中最大の島あり者
 小して印度海東南
 の方小在り馬生別
 給小相逆し居民皆
 黒番ゆして回教の
 従ふ古へより別小
 獨立して他小属せ
 せ佛蘭西嘗て其地

魚と等しく浮ぶ魚は
 あり桑給巴爾の東に
 のその力理不隣る僻
 地あり赤道黒夷の
 人種を耕す氏に半

と取んと謀りし
 と得て近來西洋諸
 國と親睦し専ら開
 化の域に進まんこ
 とと急務とせり
 ○喜望峯東南の印
 度洋小界の西の大
 西洋の北海小界の
 俗小大浪山ストルム
 といふ一千六百五

あゝ。盗を業とすか
 どりや國より都の繁
 花あり。場ふ大城の役
 あり。地は。續く馬
 生る。路その。管轄る

多し土人の皆黒番
小し身材矮く
性極めて愚あり
○加弗拉里亜の喜
望峯の東北小方
小国あり土人身の
材高く力強一曾
英小伏さるると
久し英人兵力を以
之を征しついに

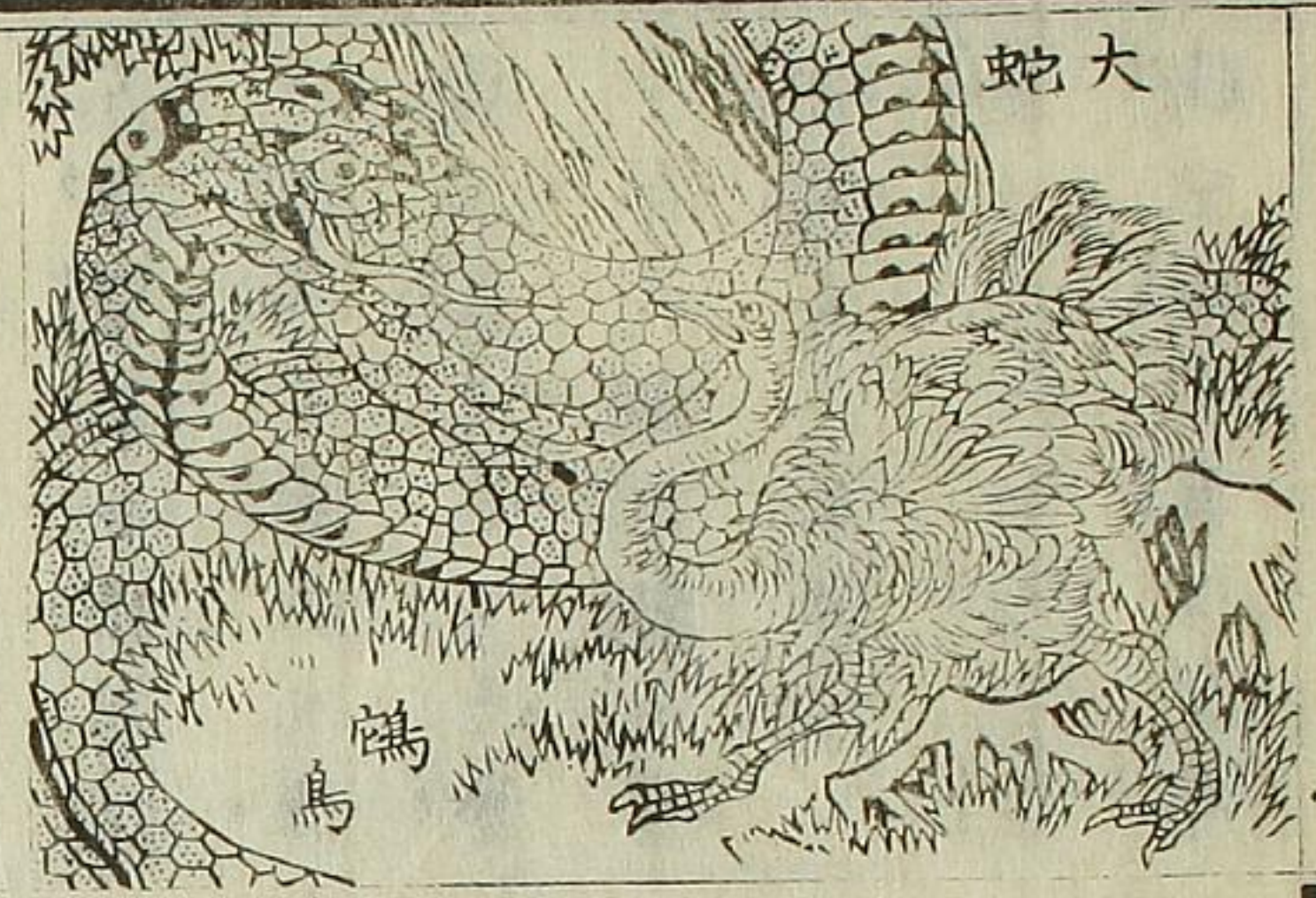
地も玉氏の純きより
富ををきよは術
知るは以港より東
南は印度洋を有る
も多れは馬特加斯

属するごとを得た

○疋丁的亜南の
方喜望峯小接した
る下等の国にて黒
民の愚あるごと極
まきり国内蘭人の
後裔ありて耕作を
習へども土人の畜
牧を以て業と見地

格も獨を其の建
方歐風をそまび
以東風俗を改めし
を内礼のる小井化
乃後退を近江を

大蛇



○百種の異鳥毒虫
悪蛇の類甚ど多く
産せり

○香港口年采盛る
海り先事付新地
新地是より西
の吉里峰英吉利
領乃大みふと蓋比

○星卑巴亜の洲の
南沙漠の中間た土
小在り獸類多く人
少し黒人其住所と
定め洲中小さき
よりて僅小口を糊
土地小産物絶乏か
○下奇尼亞の赤道
の北に當りて炎気

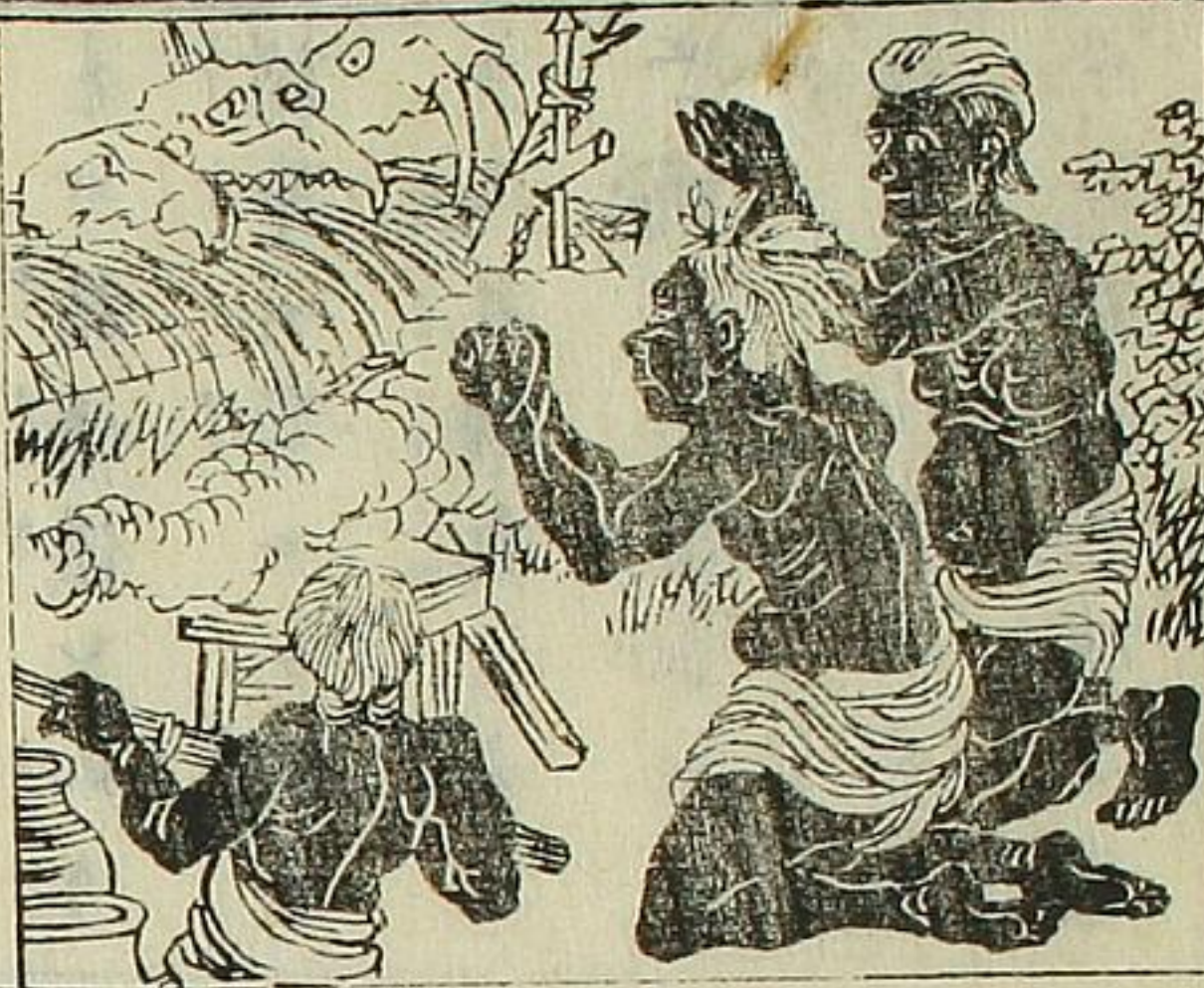
○敷の地ひそ支那
印度地へ通ふ事ある
高し船は浪中より
泊るる夜や空を
下わ東に小地加那

燃るが如く旅ゆく
人喝まきも死する者
あり黒民混沌無智
の土俗のよふしを
賣奴と事をも常小
蟲魚禽獸と拜して
神とを或ハ魚の骨
犬の牙象の齒の如
き皆奉卜てくると
拜も何の教小縁や

性むべし
○上奇尼亞の教法
下奇尼亞の似たる
こと其人心彼小較
とハ稍禮儀を知り
諸事の勢めと曉と
り人民種類と分ち
管轄も首長かく
各自らと主とと近
來花旗人此國小來

拉里亞土地狭く
や人の丈つらき
長き大男物かふ
知急乃とらさる世
の後、病む一英吉

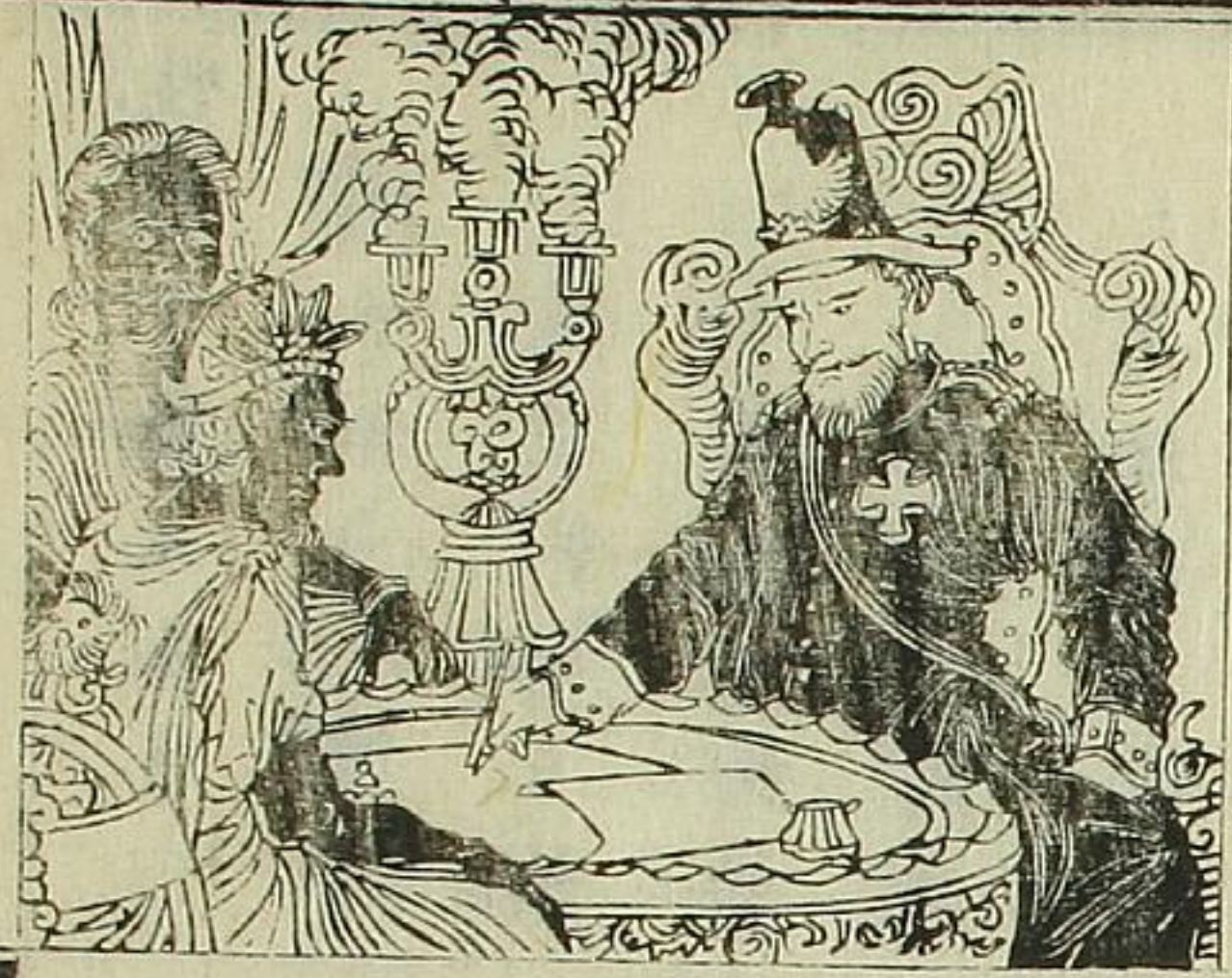
利國の奴隷役合ふ
飢ふるナリとを喜
び望む峰を望み西
り進みし子阿ふ
かの内都子界ふ



り學館禮拜堂と開
き土人と化導と以
て事勢とさる者あ
り國小英吉利荷蘭

黒民乃疴丁多的
亞やアアアア愚
の比極め人
の古路えあら夷
空る者きらぬ赤裸

の屬地ありて所々
に砲臺の設けあり
地小金沙象牙胡椒
香物等と産一貿易



牛や羊の油も精
常ふもを塗る
まの耕と業い
波や緑林生む
ぬる山又や油を

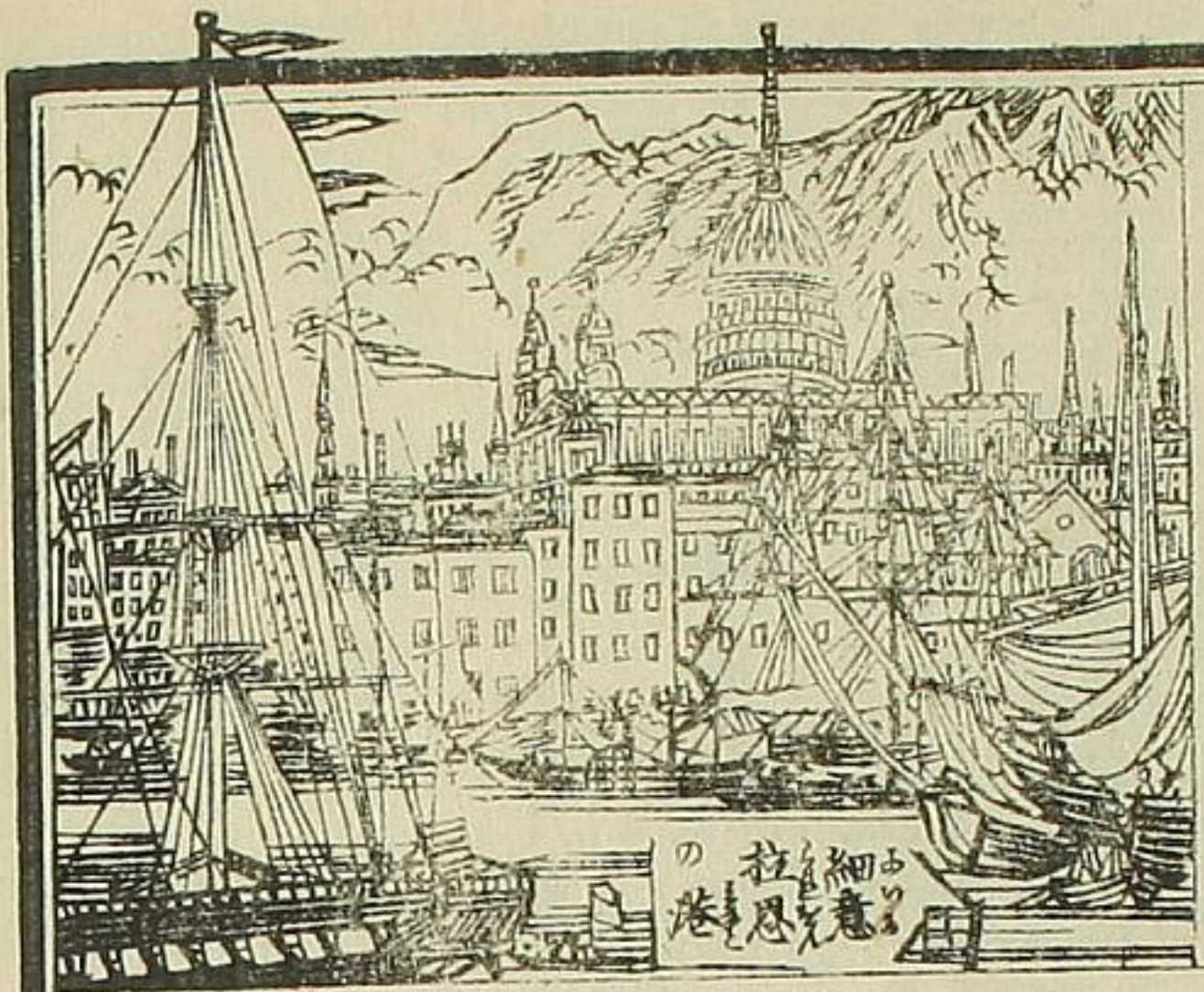
極めて盛んあり
国の西小一地あり
り里皮利亞と名
く花旗国の所属
あり其地の民多
く花旗国にて放
る所の奴あり又
他国の船奴僕を
載て人を賣んと
爲る者あり花旗

獺の獺き獣や大なる
を餌とて飼やそ
る個もあわさ地さ
る西の方星卑
巴西亞の東番之處

旗国の兵船と
見つけて堅く禁
めを賣志のむ其
奴を此地に放
しめて民と現
今士農工商咸々
備より産物地
較ぶるが最多し
○西尼降皮亞り奇
尼亞の西中あり各

不徒不其文はやと
後徒歩り口糊の業
り何変と定めあま
民り隨ふ國なる意
地のそのそ獸類の外

自主の民ありて國
小管轄の首長あり
教法奇尼亞似て
偶々回教を奉むる



多産物絶く多
土地廣く人種
の稀小恬幕の音枕
仮寐は夢や結ぶ
ら母を奇尼亞國結

者あり國小英吉利
佛蘭西葡萄牙の領
地あり共小港を開
きて貿易を専らと
る
國の西小一地あり
り細意拉里恩と
云英吉利の所屬
ありて其民皆放
た所の奴あり又

下の船は魚會也
獸類は骨牙或は
骨體神と祀り
奉拜し鼓を鳴し
笛を吹競ひて歌ひ

英國の兵船海口
を巡りて他国の
船奴僕を賣る者
あまバ必を禁じ
て賣らしめむ遂
に此地を放さし
め人民とす事
大約里皮利亞と
同ト英人地小禮
拜堂と設け学館

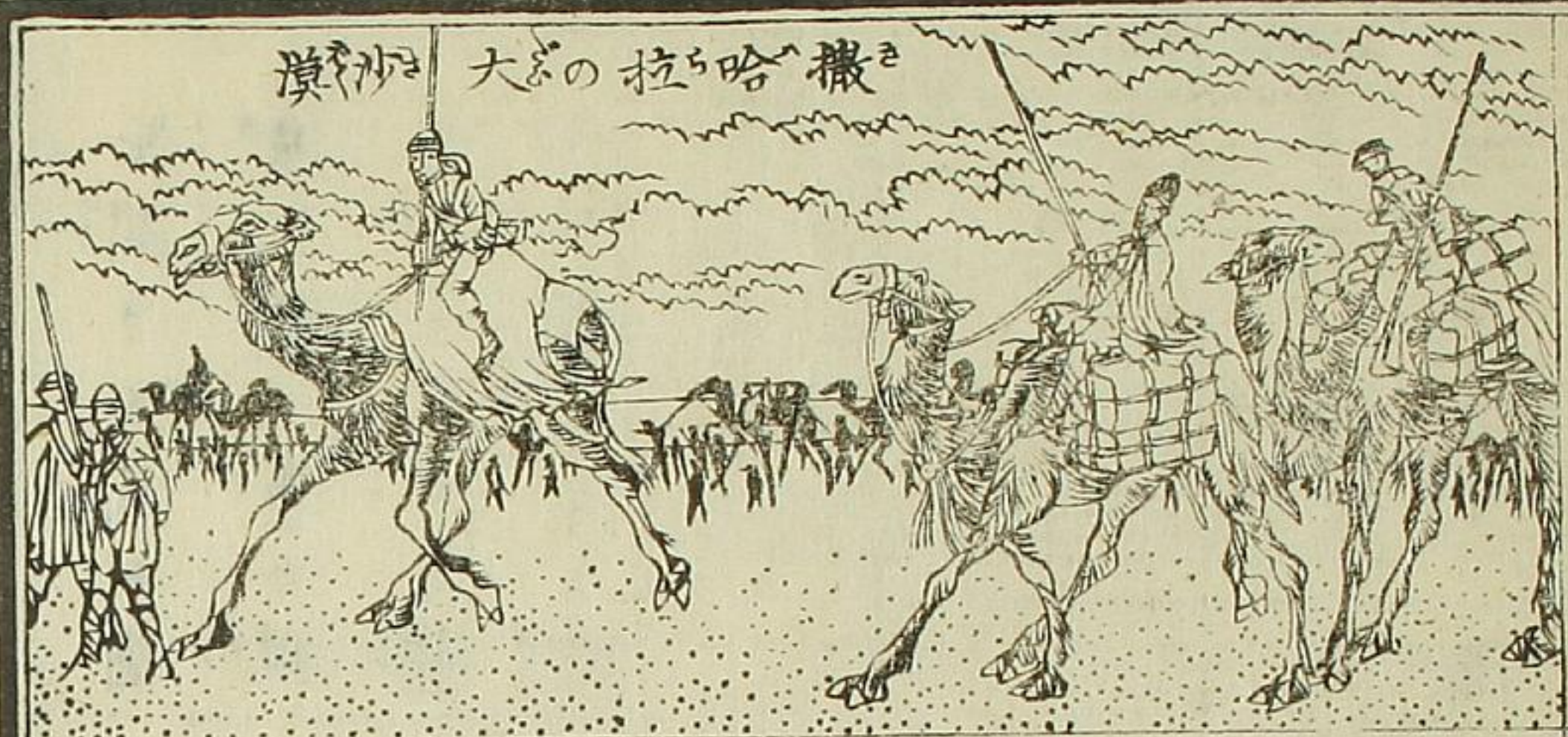
善好遊王。書此教の
道んをく。民の風俗
一般より。吾人多端
を要する。富める
百千満ると我上

と開きて民小誦
讀し教へ事の理
と知らしめて開
化小導くこと信
切あり
○蘇但國の亞非利
加中央の地小あり
國々の惣名あり赤
道の北八度より十
六度小至る東の撒

奇尼亞の風俗を
下小較べて論じあひ
少くは禮ん法も知り
諸事の務も能成り
米利堅人の偷り

世界新報

卷四



学校及び西教の総
持者を開きしるる。
知者人々博覽貿易
の盛る芽出の里皮
利無き人合衆國の

哈拉の大沙漠より
亞皮西亞小並び
南上奇尼亞小界ひ
西ハ西尼降皮亞小
界ひ北ハ撒哈拉の
大漠ハ界ひ其民四
五類ハ分つ自ら主
とし首長と置く
の設けあり人性洲
内他國の人ハ較ぶ

所屬多しわ西尼降
皮亞ハ英佛葡別
ち分ちその支配を
里。細意拉里恩を英
領ハ係る土地の港

色バ禮儀稼業と知
 まり常小好まて歌
 唱跳舞ハ戯玩の道
 具美華あち衣服と
 悦ぶ者多一
 阿非利加中土北
 の方小至るまを
 沙漠横且て風起
 るときハ天地ハ
 分らぬやど沙と

少く或ハ教の道
 やぎき。浮末よまての
 冢育急死ぞ一死
 期を得ず。
 阿非利加の中央ハ

吹おげて昏暗く
 ありテ忽地其外
 彼處ハ堆高く沙
 の積りたるハ山
 の如く天氣酷熱
 く水一滴もあ
 一枝の蔭もあ
 旅行人喝きて死
 一或ハ沙卷の大
 風小行斃とある

北の方ハ海横ぎり
 下。直る撒哈拉の大
 沙漠南蘇丹月山
 の赤乃城ハ麻諾磨
 達巴物愛まて路り

者あり故小沙漠
 と渉る者皆駱駝
 駱駝を用ひその脊
 小飲水を貯へ数



乃其の果しも知ぬ
 熱者も唯一滴の水
 もかく一枝の蔭も
 阿らざれば旅する者
 も飲めを駱駝行り

日よ水みき地と過
 て渴き極すもが
 駱駝と殺して其
 血と吸ひ或は其
 胃中にある水と
 飲ると凌ぐとい
 へり沙漠の中間
 小の水の流も草
 木の生たる地あ
 り海中の島のあ

加馬をすすぶると其
 其中程ふるふるわ
 偶水子ある土地ふ
 回部を奉む偏田舎
 哥爾多番や達爾

るが如し又沙漠の東小回教の地あり一小哥尔多番一小達尔夫耳と名く南小方り沙漠を尽して復數国あり總名尼給里西亞と云ふ則ち蘇但是あり地と二十二部

夫耳後その南尼給里西亞一り名く蘇丹を東西沙漠り界して志道と云ふ燒きく尖気小急

分の諸部各酋長あり互ひ小攻め撃ち侍とそまが其者を奴僕と

され瘴癘を病者多く他より内きそ死せざる人あり地球至る奴隸を有す英吉利人は其國の

世界地圖

卷四

りて煙りと吐き地
 気炎熱堪がたり巴
 勒拉比亞と云る大
 河ありて國中と貫
 く兩岸田地小沃り
 てそのりよ
 ○達尔夫耳ハコル
 ドフアとの西有
 り居民回教と奉ま
 土人農功と重んむ

内地を採る策
 地を採る策
 二部部
 ありて互ふ改つせめ
 ら能つ活計の業ハ



毎年国王諸部の首
 長と卒して躬耕
 民小農業を勤む此
 片おふ此禮ある

女の男を逸おさ
 樂を好く歌ふ
 誠る黑暗那蕃暴
 度の形ひの多
 り起大西附居乃

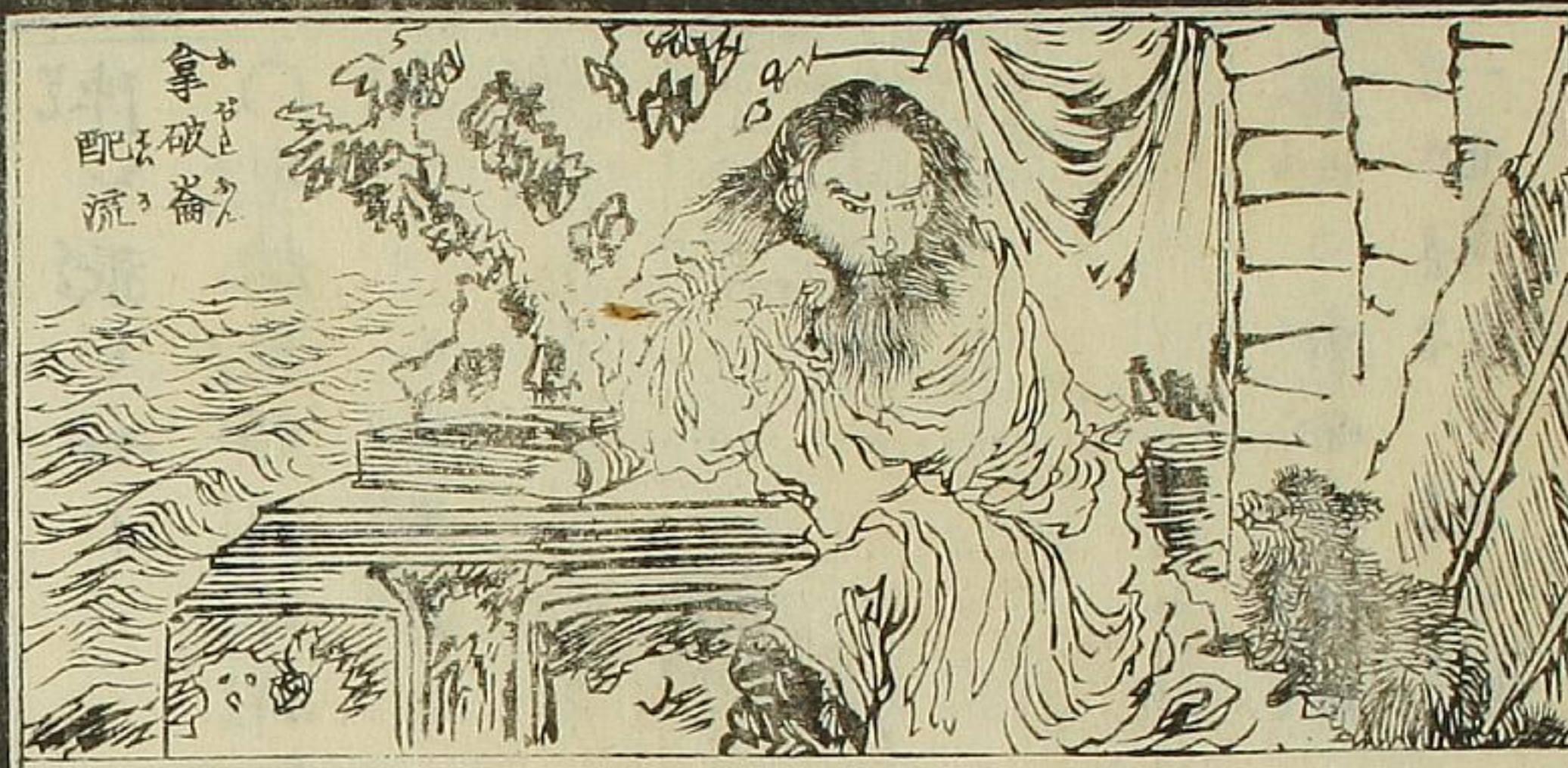
又異事といふべし
 都府に哥卑と云国
 王ハハ發捨耳と云
 別府ハ在都會ハ賀
 易盛人あまどら邊
 境ハ至りてハ盜賊
 追剥の類多く故ハ
 旅商人ハ隊を結ビ
 数多の駱駝をひき
 て行き宿る時ハ野

崎の中聖赫里那と
 多之ハ英吉利領
 也名んる事佛帝
 一世拿破倫配流此
 古臨傳りて船路ハ

陣を張ガ如ク

○聖赫里那洲外群
 島の一々大西洋の
 海中ハ在りて星卑
 巴西亞ハ近ク英吉
 利の領今ハ一近
 き島々ハ皆之ハ屬
 ふ千八百十五年佛
 蘭西の廢帝拿破倫
 一世英兵の爲ハ擒

通ハ西ハ洋如拿利
 馬地拉亞領利那崎
 地中海峽の西ハ端
 南撒哈拉ハ大漠ハ
 有リ花結隣る摩



拉牙を都に國の
名も同く洲内多言
帝國を矯る威權
の君主改偶出る行
列の從者も大納

とあり此嶋の流さ
きしより嶋の名世
小聞へたり
阿非利加群島
○馬蘇阿島
紅海の中小在り
洲北阿比西尼亞
小附く
○幾羅阿島
○蒙非亞島

五千人過る街巷邑
村の民を頭を乃矯
乃沙り埋ぬそ拜
禮其則ふそ礼と徒
る忽ち罪を家造

○桑西巴爾島

○奔巴島

○索哥德拉島

紅海の外印度海

中在り

○馬達加斯加爾島

馬地拉と名く印

度海東南の方莫

三鼻給ふ近一亞

非利加群島の太

里上を人習ふ下

さうゆに賤きもの

そんを家農を

馬ひく他を操免

我物とまざる弊也

ひかる者あり

○毛里西亞島

馬達加斯加の

東あり小島四

十餘皆近く属

○不尔奔嶋

毛里西亞の東

あり

○聖赫里那嶋

一不三達厄勒那

まひにたる土地も豊

饒を亦は田畑の産物

中子生ひ成るむらり

あり。この島は丹余利

る。西班牙國を對ふ

とも云前小記尾

○桑多美島属 葡国

○緑山頭群島属 葡国

其内三島小分つ

塞内固比亚の西

小あり

○加拿列斯群島

共小二十餘島有

り摩洛哥の西小

在り属 西班

涯きり東ひがしよりあくる亞あ爾る及ぎ

耳みみ近ちか古ふる昔むかしはは北きた極ごく

民たみちち海うみ緘づののここをを業わざ

ととししてて地ち中ちゆう海かいある

通と船せんのの患うれひひととあるる

○修達島属 小

地中海直布羅陀

海門の内小在り

○摩洛哥国阿の

西小在り居民

六百萬皆紅帽子と

冠り回教を奉む舊

阿刺伯小属亡後小

獨立国とあり現今

帝國と称す人民盜

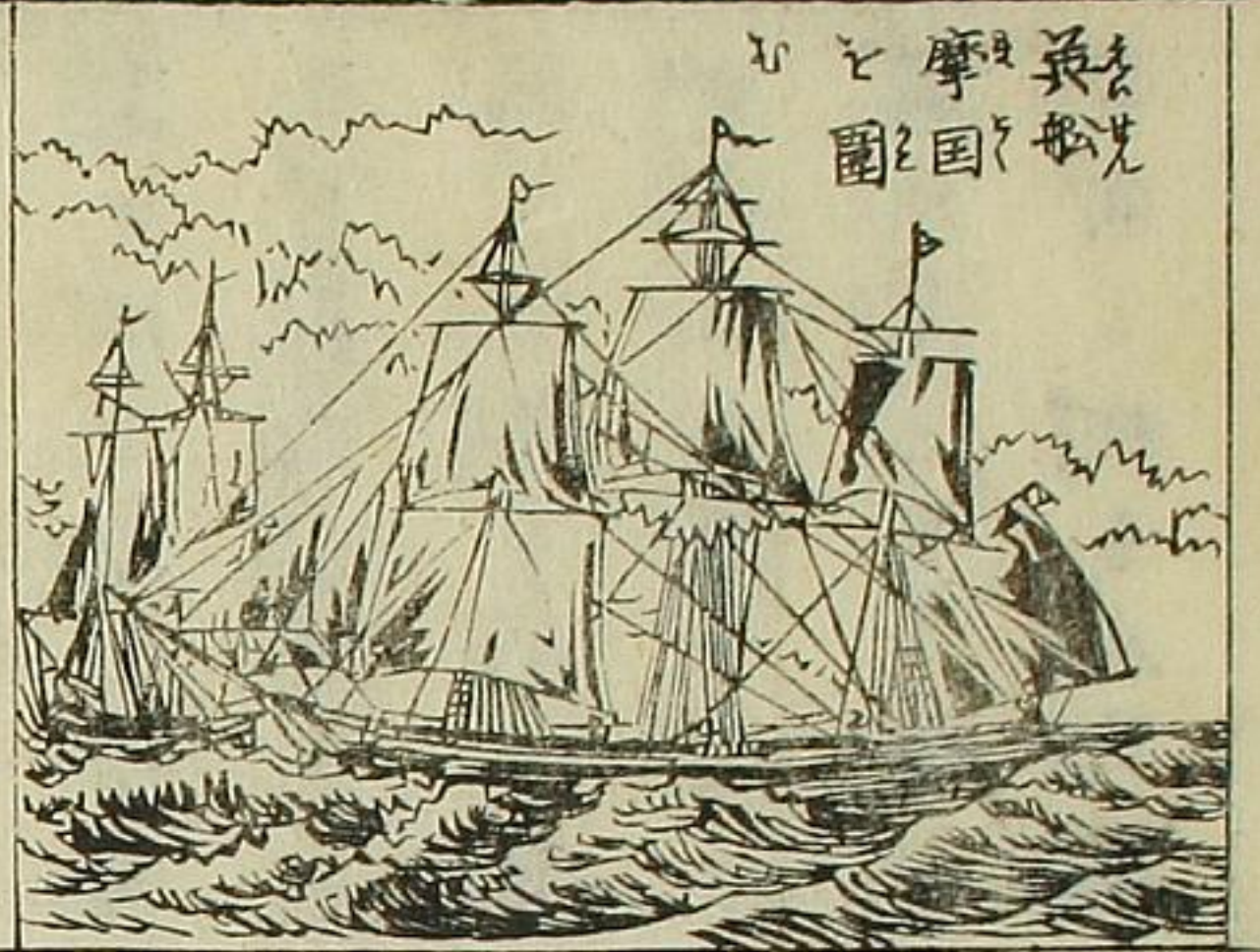
多おほりりれればば英えい佛ふつ米まい比び

三箇國兵船救護を

ささししててはは地ちをを

征せいまますすそのその後のちはは佛ぶつ米まい

西さい復ふくんん大だい兵へいをを率ひきかてて



英佛の兩國の兵船此國を
 攻て其都城を圍ひ
 小國王震以恐は擄
 らる者數千あり
 或は復他國に賣る
 英佛の兩國の人擄
 らる者數千あり
 兩國の兵船此國を
 攻て其都城を圍ひ
 小國王震以恐は擄
 らる者數千あり
 或は復他國に賣る
 英佛の兩國の人擄
 らる者數千あり

經年大略。今も
 其の屬をとりて人
 畜のありしや。風
 俗總く彼をを
 るる海の外内部

或は復他國に賣る
 英佛の兩國の人擄
 らる者數千あり
 兩國の兵船此國を
 攻て其都城を圍ひ
 小國王震以恐は擄
 らる者數千あり
 或は復他國に賣る
 英佛の兩國の人擄
 らる者數千あり
 兩國の兵船此國を
 攻て其都城を圍ひ
 小國王震以恐は擄
 らる者數千あり

世界部各

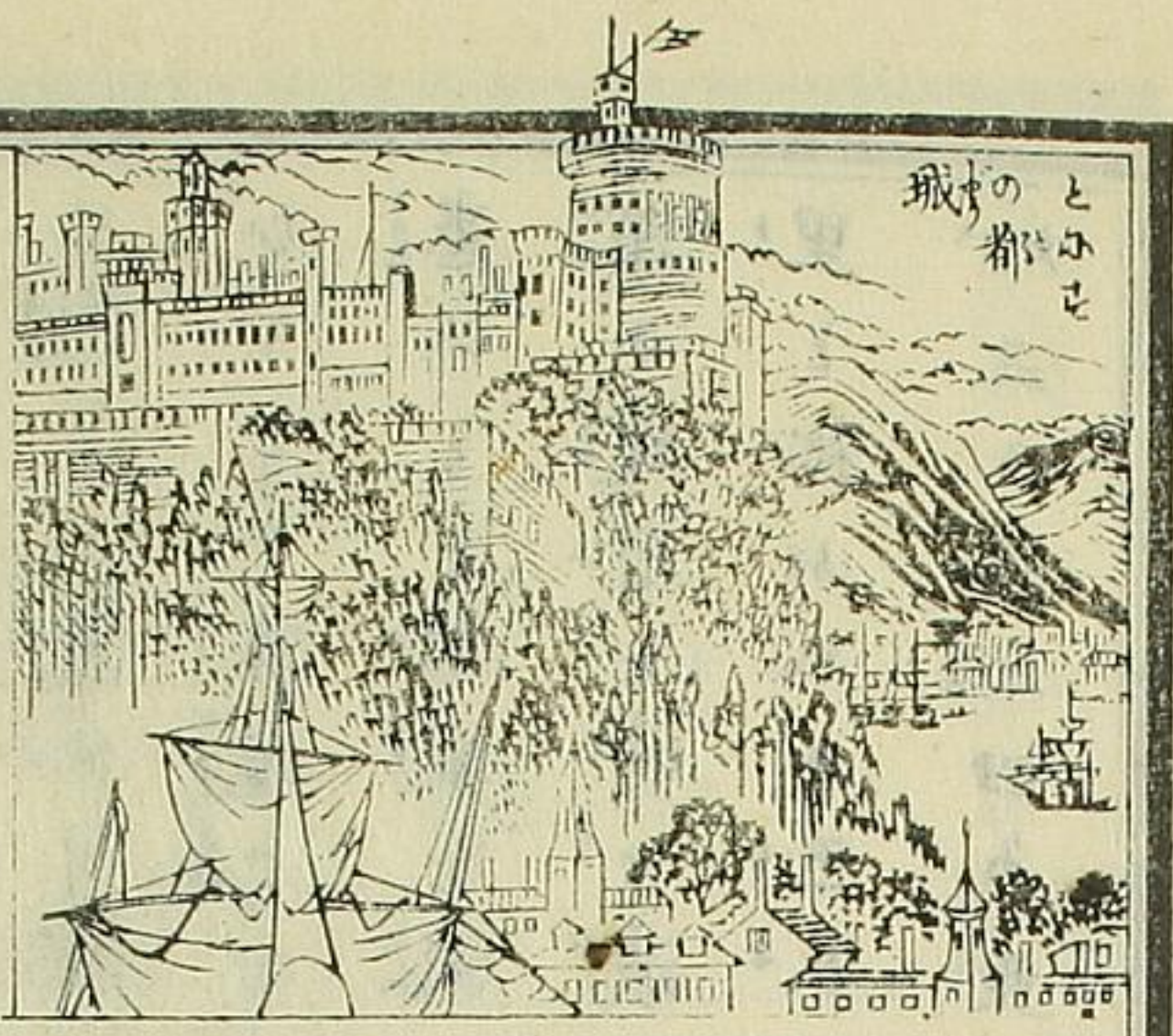
卷四

○世二

沙漠の回族を監
 ぶ。後の散や。膏
 腴地味乃甲斐。家
 きたる。農民稀の故
 あり。新都の外小

朔内各國の比を
 き地か
 ○亞及耳アルゲ
 リーとも云突尼斯
 の西ゆあり舊土耳
 其小属一今佛蘭西
 の藩部とあり其
 地戸口三百萬舊く
 七部に分つ
 ○突尼斯ハ的利波

舊くより六部あり
 分つ首府の一岡士
 丹的納えんちねハ其地
 の後も阿るまじつる東
 と北より折曲して海小



里の西ゆあり地勢
 平坦ふり七潤ハ
 人口三百萬民安き
 小居国小盜賊か

さし出突尼斯ハ
 地勢方平に沙磧の難
 きと河の傍を膏腴
 の土ふくみの里民の
 起卧安らふ他沙

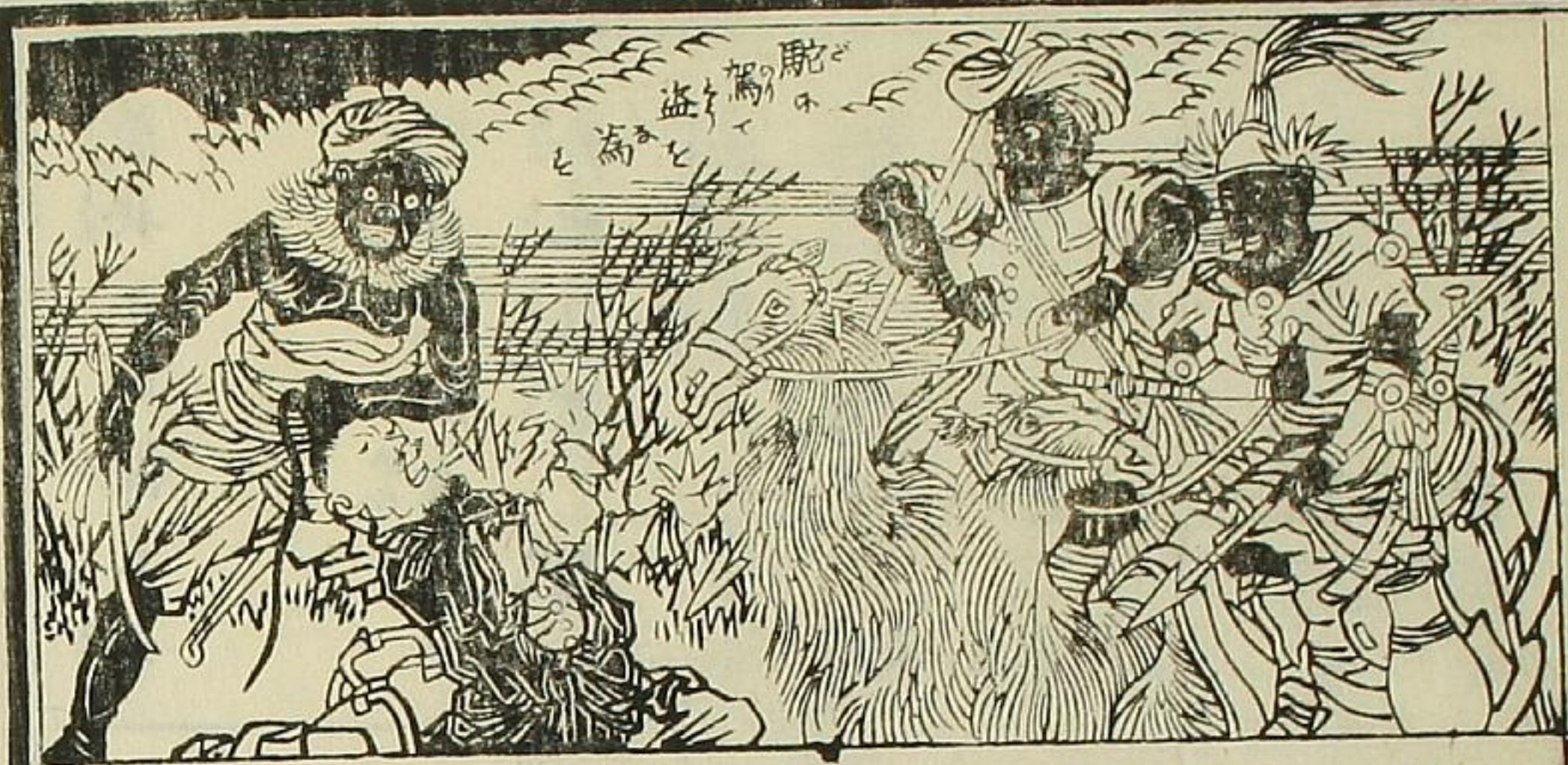
土耳其藩部は屬を
 ○的黎波里の麥西
 の西に在り土耳其
 の屬に地昼暑く夜
 の寒し人氣他と掠
 りるより隣境之と
 患ひと都城と海
 濱に建府と時力波
 里と稱ぶ二小巴
 加三小非三四小亞

他山と交易し侵
 掠むる智ひあく回
 部の中は善く西
 洋人稱えたり法國
 土耳其の管轄を以て

達美共小四部小分

阿非利加全土ハ
 其地氣重く濁り
 其人愚小し十
 萬年を歴ると雖
 猶上古の如く風
 俗自ら開く事能
 也歐羅巴諸國の
 人好みて新地を

的里幾亞達拉幾斯
 少。兩部少分つ一王。
 伐。其血統。拘。其
 考。氏。の。推。舉。少。位。ハ
 了。世。嗣。之。元。ハ。例。

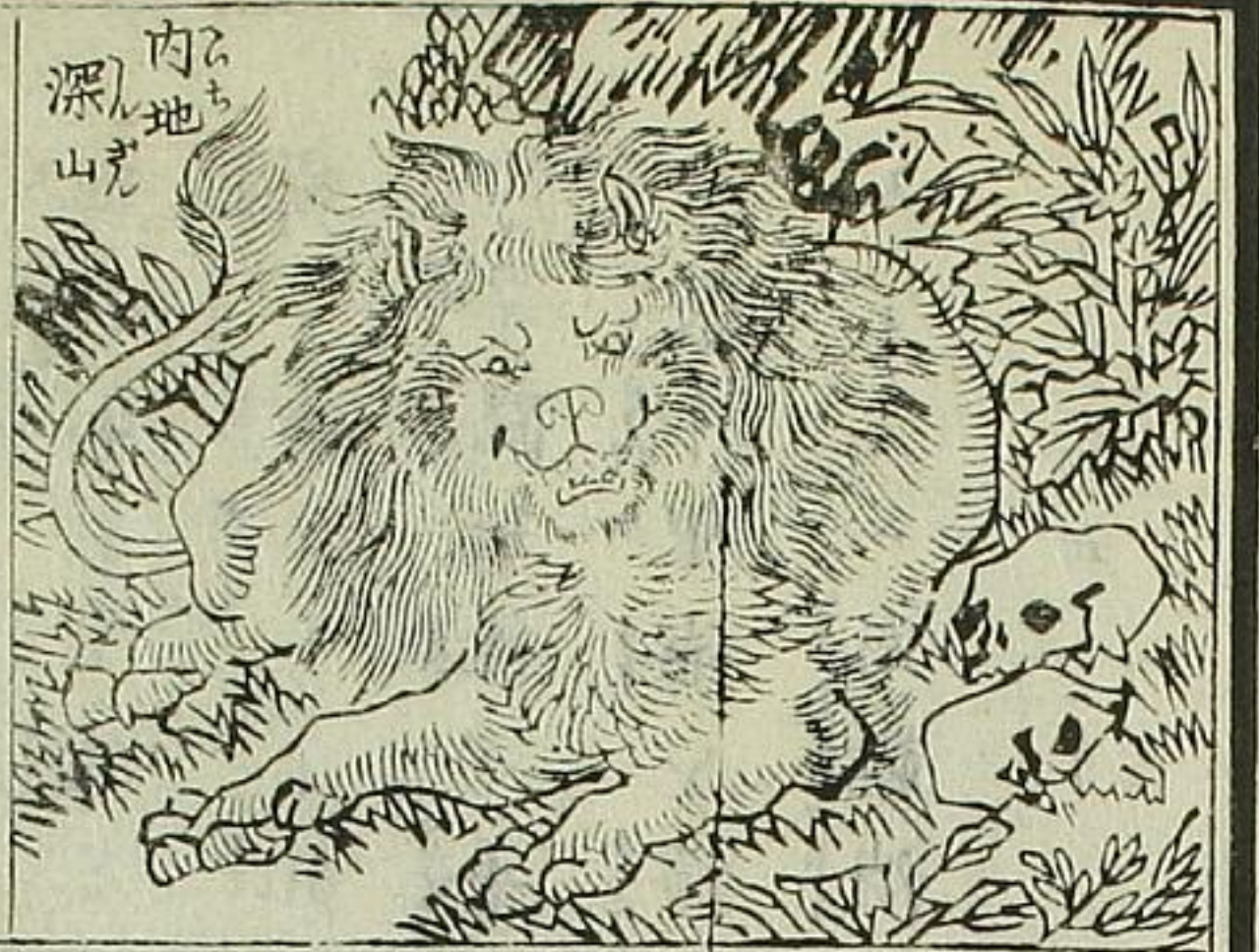


去る地位を東に
 的黎波里に於て
 あり屬する地を
 四部に分ちて外に
 沙漠の所系より其の

尋ね大船に乗て
 四海を周遊非利
 加洲の海邊に縁
 り僅小國の業を
 創むると雖も深
 く内地に入りて
 山川の昏く濁し
 るを聞き一洗ふ
 ると能はざる蓋し
 故あり此洲中間

生へるに土あり耕を
 民も阿らざるに
 り騎て隊を組隣り
 境ひをさしめし探
 るの業は世後より

赤道に當り其
 南北に赤道を去
 ること遠からば
 炎暑酷烈しく瘴
 癘尤も多し其地
 小生長する者少
 あらざるが殆ど
 堪がたし他洲の
 人此土に足を入
 る者多く死



内地深山
 北土亞細亞と
 接し連る東西兩
 内海地中海等々
 船泊りの地あり

かるるはこれ先
 多直波里海濱
 少深死て達する王城
 の餘小巴爾加も非三
 え沙漠境ひて國名

を等しくよど酷熱
 の地を穿る反きく夜
 多し昼の暑き
 大僻地ありる回
 多しめぐる之

地ハ沙磧ト雖東
 の方ハ早く地を
 擇て居る民多ク
 其東西南の三面
 地平小して海と
 齊く凸凹ハ北
 方早路を往ハ平
 沙數千里海を涉
 るよりハ尤難渋
 ると云へり

えんじらまて埃及
 帰る加義羅の部族
 や。志をいしる愛ふ
 屋をくらお孫

010190534036

